平成13年度の成果と課題

研究推進体制、教師の意識等について

高等学校側が担当者のみの取り組みとなり、 中学校との学校としての連携にまで広がら なかった。

中高でお互いの授業を交流することにより、 双方の生徒や指導の実態を把握するととも に、指導内容や指導方法の相違点や関連等が 明確になった。

公開授業の際に、両学校の担当者と担当指導 主事という3者の調整が困難であった。

生徒の実態等について

実践的コミュニケーション能力の基礎を培 う「聞く」「話す」活動中心の中学校におい て、語彙や文法などの力を付けていく指導 の充実が望まれる。

両校の指導のねらいが異なっているため、 1時間だけの授業公開において、生徒の実態の把握、並びに指導方法やねらいを双方が理解することは困難であった。

研究テーマ

表現力の向上にむけての指導の在り方

1回目の授業交流:「書くこと」を中心とした表現能力の向上2回目の授業交流:「話すこと」を中心とした表現能力の向上

平成14年度の具体的な取組内容

の資料交流

中学校として

- ・ALT とのティーム・ティーチングを通してコミュニケーション能力の基礎を育てる。
- ・ペア、グループ、スクランブルなど授業形態の工 夫を通して、生き生きとコミュニケーションを図 る姿を目指す。
- ・日常での継続的なノート指導、「書く」ことによる 表現活動の位置付けにより表現力の向上 ・定期テスト等を図る。

高等学校として

「書く」 2~3週間毎にテーマを与え、英文のレポート提出 国際理解コース 「My Book」の制作

1年生全員 スピーチコンテストの原稿作成

「話す」 ALTとのTT 授業の固定化

国際理解コース 「My Book」による自己表現

模擬留学体験

語学研修

商業・情報処理科 海外研修旅行事前研修 1年生全員 校内英語スピーチコンテスト